

# ご挨拶

—— 2023年6月29日付で理事長に就任いたしました ——

海外投融資情報財団  
理事長

林 健一郎

Kenichiro Hayashi



海外投融資情報財団（JOI）が1991年12月に設立されてから30年以上の年月が経過しました。JOIが設立された当時、私は南米コロンビアのボゴタに駐在しており、この駐在期間である80年代末から90年代はじめにかけての日本は、バブル景気の最盛期から終わり頃に差し掛かる時期であり、世界各国が日本の繁栄に目を向けていた時期と重なります。当時、ボゴタ市内のスペイン語スクールに通っている際に、クラスに在籍していたいろいろな国の人たちから、日本経済の繁栄の理由は何ですか？と興味を持って聞かれたことを今でも良く憶えています。この質問に当時まだ若かった私が十分な回答をすることは出来なかったかもしれませんが、一つ言えることは当時の日本の繁栄を支えていたのは、人の力（人材）と日本の技術力であったということだと思います。

その後、バブル崩壊後の90年代以降、日本は失われた30年と言われる長い低迷期に入っていくことになります。もちろん、その時々で一人ひとりが自分の持ち場で日本経済の再興や活性化等に全力を尽くしてきていると思うのですが、かつてのような日本の存在感を取り戻すことが出来ないまま今に至っているように思います。

それでは、今後どうすれば日本はかつてのような存在感を取り戻せるのでしょうか。それには、まず日本を取り巻く様々な課題を踏まえた上で、日本をこれから先、どのような国にしていくのか（例えば、かつてのような産業競争力を持った経済大国とするのか、それとも経済規

模は大きくなくともキラリと光る技術やソフトウェアなどの集積を持ち、且つ成熟したウェルビーイングに満ちた国を目指すのか等）という方向性を決めた上で進んでいくことが必要ではないでしょうか。しかし、どのような方向性を目指すにしても、資源も土地も少ない日本が、世界の中での立ち位置を維持するためには、何よりも人の力（人材）と優れた技術力は必要であり、それは今後も変わることはないでしょう。こうした日本の強みを維持、発展させるためには一人ひとりが新しいことにチャレンジする気持ちを持ち、そして失敗しても諦めないこと、視野を広めるために積極的に外に出ること等、これらを不断に実践していくことが大切であると思います。

過去30年を振り返り、理事長就任に当たってJOIに出来ることは何かを改めて考えてみると、それは設立時から今まで変わらずに行っていること、すなわち、その時々で必要とされる情報を的確に提供すること、新しいチャレンジのヒントとなるようなセミナーの企画と実施、会員企業の皆さまや各国の大使館等との間のネットワーク拡大・深化のための仲介であると思います。今後もこれらの活動を通じて人の力（人材）を少しでも高めることに貢献出来るよう、力を尽くしていきたいと考えています。

